

令和3年 二級建築士学科試験 合格推定点と講評

講師の岡部です。

令和3年 二級建築士学科試験の講評を公開いたします。

昨日、二級建築士学科試験を受験された皆様、本当にお疲れ様でした。

■TAC合格推定点■

TAC合格推定点 60点以上

TAC各科目基準点 計画 13点以上、法規 13点以上、構造 13点以上、施工 13点以上

午前の計画、法規及び午後の施工の難易度が比較的良かったこと、構造はおおむね標準的な難易度だったことから、総合推定点は60点以上と考えられます。

なお、この推定点はTACが独自に算出したものです。

実際の合格点と異なる場合がありますことをあらかじめご了承ください。

試験実施機関による正式な合格発表は8月24日（火）が予定されています。

それでは続いて総評です。

■計画■

- ・難易度は低く易しい問題でした。全体のおよそ2割くらいの新規問題（枝）が出題されておりましたが、正答枝となっていない問題が多く、比較的受験生にとっては解きやすい問題であったと思います。また例年のように1級建築士試験で出題された問題も数問見受けられました。ただし、過去問の知識を理解し、記憶していれば消去法で解ける問題も多く、過去問の知識で基準点は確保できたことでしょう。
- ・[No.10]解答枝2. の「PM2.5（微小粒子状物質）」及び解答枝3. 「SDGs（持続可能な開発目標）」の用語の内容を問うなど、2級では新規で目新しい問題が出題されました。このように最近、話題性のある内容のものも今後は出題されていくことでしょう。
- ・[No.15]解答枝の4. の「老人デイサービスセンター」に関する問題は、1級では平成23年、26年に出題されており、1級の問題が2級に下りてきている傾向を示しています。しかもこの枝4が正答枝（誤答枝）であり、難問でした。今後、介護施設等についての対策を取る必要があるでしょう。
- ・[No.17] 解答枝の3. の「アンダーパス」、解答枝4.の「登録有形文化財」、解答枝5.の「イメージハンブ」の用語は、いずれも2級では新規で目新しく、その中で「登録有形文化財」だけは平成29年に1級で出題されています。まちづくりに関する問題は、このように新規の用語の内容を問う問題が、今後も出題されていく傾向にあると言えるでしょう。

■法規■

・難易度は低く易しい問題でした。建築基準法 20 問、関係法令 5 問は例年通りでした。法規で高得点を確保し、総合点の点数を伸ばしたいところです。

・[No.5]解答枝 4.については、「長屋」の階段の幅の寸法、「幅が 10cm 以上ある手すり」が付いた場合の階段の幅の算出方法を問う新規の問題でした。この手すりの幅が 10cm 以下か、それを超えるかで階段の幅の数値が変わってくるので、比較的難問であったと言えるでしょう。

・[No.12] 解答枝 3.については、敷地と道路に関する条文だけでなく、現場事務所という仮設建築物に対する制限緩和措置の条文も併せて理解しないと解けない問題でした。このように設問が道路等に関する問題でも、その部分の条文だけでなく、関連する他の条文も引けるようにしておきましょう。

・[No.17] 2つの用途地域にまたがる建築物の高さの最高限度を問う問題は、平成 26 年、平成 24 年以来の出題です。平成 24 年出題の類似で、道路斜線制限の検討及び第一種中高層住居専用地域の北側斜線制限の検討を行って解答する問題でした。

■構造■

・標準的な問題でした。No.1～5 の力学の問題は、難易度が低く易しい問題で、比較的解きやすい問題であったのではないのでしょうか。ただ、後半の文章問題では、目新しい問題もあったものの、過去問の知識と各構造の原理・原則を理解ができていれば基準点は得点できたことでしょう。

・[No.1]このような図心の座標を求める問題で、L 型の断面を分割して X 軸、Y 軸まわりの断面一次モーメントや断面積を計算する方法は、よく出題されますので、解き方を覚えておきましょう。

・[No.4]従来のような切断法等により部材の軸方向力の数値を求めるのではなく、軸方向力が生じない部材の本数を問う問題でした。トラスの切断法による計算を苦手とする受験生にとっては、解きやすい問題であったと思います。

・[No.8] 2階建て建築物の地震力の計算方法を、数字や記号で表記して解答させる新しい出題様式です。基本の知識があれば簡単に解ける問題です。

■施工■

・難易度は低く易しい問題でした。新規の問題もいくつか見受けられましたが、過去問の正確な知識があれば惑わされずに得点できたでしょう。

・[No.6]木造住宅の基礎の問題は、ホールダウン金物を表記した詳細な図を取り入れた新規の問題ですが、各部位の寸法は、基本が習得できていれば解ける問題でしょう。

・[No.17、18、20]樋受け金物の取り付け間隔やモルタルの塗り厚、ガラスの掛り代など、数字の正誤を問う問題が数問ありました。しかも正答枝であったので、数値を覚えていないと解答することが出来ず、やや難問であったと思われます。

・[No.22]正答枝の1. は、0.7 mmという数値に目が行きがちですが、アスファルトルーフィングを増し張りするという部分の「アスファルトルーフィング」の間違いを問う問題でした。用語をしっかりと覚えておかないと解けない難問です。

二級建築士学科試験の総評は以上です。

合格見込みの方、次は設計製図試験です💎

T A Cでは課題説明会が7/7（水）から始まります！

二級製図の「課題説明会」については、
[こちら](#)をご確認ください。

つかの間の休息をとった後、いよいよ設計製図試験に向けて頑張りましょう！

皆様の好結果を祈念しています

T A C建築士講座

令和3年7月5日